



〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476 Tel 042-691-0011 (代表) Fax 042-691-8617 (共用) email: jimu@jsthe.org

◇編集・発行人 川村学園女子大学 丹治朋子 email: tantomo@gmail.com ◇学会 URL <http://jsthe.org>

## News Letter 2012 No.1

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第30号 発行 2012年5月22日

◇学会事務局：杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平

### 【2012年度 JSTHE 総会・講演会のご案内】

2012年度の日本観光ホスピタリティ教育学会総会および講演会等を以下の通り開催いたします。会員の皆様には、ぜひご出席いただきますようご案内申し上げます。また、講演会、シンポジウム及び懇親会には会員以外の皆様にもご参加いただけます。お誘いあわせの上お越しいただけますことをご待ち申し上げます。

観光ホスピタリティ教育が全国的に拡大している昨今、実業界から教員に転身される先生方が多数いらっしゃいます。今年度は、こうした先生方から見た観光ホスピタリティ教育についてお話をうかがい、その課題や解決の糸口を検討してまいります。

#### 1. 開催日時：2012年6月16日（土）

13:30～17:55 ＊終了後懇親会

#### 2. 会場：立教大学新座キャンパス

〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

#### 3. 日程

11:00～13:00 理事会（5号館60会議室）

13:00～ 受付（7号館3階アカデミックホール前）

13:30～13:35 開会式（アカデミックホール）

13:35～14:15 総会（〃）

14:30～15:30 講演会（〃）

「実業界出身の教員から見た観光ホスピタリティ教育の課題」

講師：玉井和博氏（立教大学 観光学部教授）

15:45～17:45 シンポジウム（〃）

「実業界出身の教員の観光ホスピタリティ教育」

モデレーター：村上和夫氏（立教大学）

パネリスト：秋山正人氏（文教大学）

鈴木泰夫氏（帝京平成大学）

舘野和子氏（東海大学）

森山 正氏（阪南大学）

柳川悦子氏（東洋大学）

17:45～17:55 閉会式

18:00～20:00 懇親会（学生食堂 Forest 2階）

#### 4. 参加費

総会・講演会・シンポジウム 無料

懇親会費：会員／一般 4,000円

準会員／学生 3,000円

#### 5. その他

（1）講演会、シンポジウム、懇親会には会員外の皆様にもご参加いただけます（懇親会のみ有料）。ご参加希望の方は、件名を「総会・講演会参加希望」としていただき、氏名、御所属、講演会・シンポジウム・懇親会のうち希望されるプログラム（懇親会は有料です）、ご連絡先（e-mail、電話、FAX）を明記の上、jim@jsthe.org（杏林大学内、当学会事務局古本宛）にご連絡ください。FAXの場合は042-691-8617へお願いします。同封の一般向けチラシもご活用ください。

（2）同封の出欠はがきに必要な事項をご記入の上、6月6日までにご投函くださいますようお願い申し上げます。

## 【JSTHE 第11回全国大会開催報告】

2012年3月3日（土）・4（日）、「東日本大震災と観光ホスピタリティ教育」をテーマに、日本観光ホスピタリティ教育学会第11回全国大会が立教大学新座キャンパスにて開催されました。参加者数は、会員53名、一般参加8名、合計59名でした。

今大会では、昨年度の第10回記念全国大会にて好評を博しました、観光ホスピタリティ教育を行っている大学・短期大学のパンフレット展示も継続して実施いたしました。パンフレットをご提供いただいた学校、団体の皆さま並びにご参加・ご協力いただきました皆様に、あらためましてお礼申し上げます。

また、併催されました日本学生観光連盟の総会・学生討論会には、10大学から36名の学生と、観光関連団体等から7名が参加し、そのほとんどの方が本大会の基調講演を聴講しました。（日本学生観光連盟の当日の様子は pp.6-7 をご参照ください。）

### 第1日目 3月3日（土）



最明 仁 氏

初日は、鈴木勝副会長（桜美林大学）による挨拶に続いて、最明仁氏（JR 東日本総合企画本部観光戦略室長）による、「東日本大震災からの復興と観光人材育成」と題した基調講演がありました。

東日本大震災での JR 東日本の被害は、東北新幹線だけでも約 1200 箇所へのぼり、4/7 以降の余震による被害も約 550 箇所という甚大なものでした。とはいえ、全国的な被害の大きさから考えますと、同社が震災前からさまざまな対策をとってきたからこそ、この程度で抑えられたともいえます。講演ではこうした被害の状況と従来からの対策、その後の復旧の状況やさらに追加された安全対策についてお話いただきました。路線によってはルート変更が必要なケースもあり、その場合には地域全体の復興や「まちづくり」を視野に入れた取り組みが必要となり、一運輸事業者の範疇を越えた意思決定が求められています。

震災のためだけでなくさまざまな要因によって変化する社会に、どのように適合し、社会から必要とされる存在であり続けるかについて、

観光振興・地域活性化、研究開発の推進、収益基盤の拡充など具体的にご説明がありました。その上で、観光人材育成について、日本経済全体を牽引するという高い志、マネジメント能力、グローバルな視点、価値の再構築の4つのキーワードの重要性が指摘されました。



次に、野口洋平氏（杏林大学、写真右下）を司会に、「東日本大震災と観光ホスピタリティ教育」をテーマにシンポジウムが行われました。

東日本大震災後、観光ホスピタリティ教育の現場では、被災地を訪れてボランティア活動に参加したり、被災地から離れた場所で被災地を応援する取り組みを実施したりと、数多くの取り組みが行われています。その実施の範囲は全学の学生を対象とするものから、観光ホスピタリティ関連学科に限定するもの、ゼミ単位で実施するものなど多様であり、単位認定をしている大学もあります。



このような取り組みは現地からも感謝され、学生自身も成長するよい機会ともなっていますが、他方で、特定の教員に負担が集中してしまったり、他の授業を休んで実施することへの批判があったり、安全確保や受け入れ先の選定などの課題も指摘されております。

本シンポジウムでは、パネリストに、岡本伸之氏（帝京大学、写真左上）、鈴木勝氏（桜美林大学、写真右上）、尻無浜博幸氏（松本大学、写真左下）の3人をお招きし、司会の野口氏を含め、それぞれの大学での取り組みの状況や教育上の効果、直面した課題など、幅広い議論が展開されました。

そして、「被災地支援活動に参加して」と題して、大阪国際大学国際コミュニケーション学部3年次（当時）渡邊ゼミナールの矢嶋隆弥氏より学生報告がありました。福島県内の大学や日本大学などと連携して実施した現地でのボランティア活動、地元で実施した福島観光物産展、視察ツアーなどの様子について紹介し、これらの取り組みの継続の重要性を熱く語っていただきました。

その後、海老澤昭郎氏（長崎国際大学）の司会により、3本の研究論文・教育実践報告の発表が行われました。続いて別室にて日本学生観光連盟の活動報告が行われ、初日最後には学生食堂にて懇親会が行われ、意見交換がにぎやかに行われました。

## 第2日目 3月3日（日）

第2日目の午前中には、「フィールドワーク（学外活動）と危機管理」を共通テーマと設定したワークショップが開催されました。話題提供を会員である先本将人氏（ジェイアイ傷害火災保険株式会社）に依頼し、学生・生徒を学外に引率する際の危機管理のあり方や、実際に発生しうる危機の種類と特性、対応策、賠償責任の範囲などについて、国内の事例や海外の事例や判例を多く取り入れてご紹介いただきました。

そして、2つの会場に分かれて同じテーマでワークショップを実施し、午後には各モデレーターから討議内容の報告がありました（モデレーター、鈴木泰夫氏（帝京平成大学）、鈴木涼太郎氏（相模女子大学））。

なお、冒頭で紹介しましたパンフレット展示にご協力いただいた学校・団体は次の通りです。厚く御礼申し上げます。

パンフレット提供校・団体（五十音順）

大阪国際大学、大阪千代田短期大学、川村学園女子大学、岐阜市立女子短期大学、九州国際大学、杏林大学、神戸夙川学院大学、駒沢女子大学・駒沢女子短期大学、湘北短期大学、西南女学院大学・西南女学院短期大学、玉川大学、帝京大学、帝京平成大学、東海大学、東北芸術工科大学、長野大学、北海商科大学、松本大学、明海大学、山梨県立産業技術短期大学、立教大学、和歌山大学、JTB 能力開発

本大会の基調講演、シンポジウム、ワークショップの詳細は、当学会機関誌、『観光ホスピタリティ教育研究』第7号に掲載される予定です。

### 【理事会報告】

<2011年度 第5回理事会>

- (1) 日 時 2012年3月3日(土) 11:00~11:50
- (2) 場 所 立教大学 新座キャンパス 2号館 N231 教室
- (3) 参加者 鈴木副会長、豊川監事、吉田監事、安島理事、宍戸理事、福本理事、益山理事、丹治理事、大谷理事、中村理事、野口幹事、古本幹事 以上12名 (委任状4通)

(4) 議題

1) 入退会審査

入会審査 正会員：柳川悦子（東洋大学）、池田茂（ハワイコンベンションセンター日本事務所）

以上2名

退会申請 正会員：堀和秀、堀和子 以上2名

\* 正会員142名、準会員14名、特別会員1団体、名誉会員2名

2) 第11回全国大会

・2日間のプログラム、運営体制、および予算案について最終確認を行いました。

3) 編集委員会報告

・機関誌第6号の編集進捗状況について報告がありました。

・情報ナビゲータ (CiNii) のコンテンツ公開条件の申し合わせの改訂確認の依頼について、編集委員会からの提案どおり現状維持で進めることが確認されました。

4) 広報委員会報告

・会報の2011年度第3号が発行されました。(2011年2月)

5) その他

・3月4日(日)の全国大会終了後に第2回臨時理事会実施について確認されました。

<2011年度 第2回臨時理事会>

- 1) 日 時 2012年3月4日(日) 14:20~15:40
- (2) 場 所 立教大学 新座キャンパス 3号館 N324 教室
- (3) 参加者 清水会長、村上副会長、鈴木副会長、安島理事、小畑理事、宍戸理事、益山理事、丹治理事、大谷理事、中村理事、野口幹事、古本幹事 以上 12名 (委任状4通)
- (4) 議題
  - 1) 2012年度総会・懇親会
    - ・日程は2012年6月16日(土)、立教大学新座キャンパスにて実施。
    - ・テーマは「実業界出身の教員から見た観光ホスピタリティ教育」。
    - ・基調講演、シンポジウムには各産業ご出身の教員に依頼を予定。
  - 2) 次期の役員改選に関する推薦委員会の結成
    - ・村上委員長、宍戸委員、益山委員、丹治委員が選出され、5月の理事会までに原案を作成することが決定されました。
  - 3) 事務局業務の外部委託
    - ・2012年度より事務局業務をCANPANセンターに委託することが確認され、データブック発行にむけての調整が必要であることが確認されました。
    - (編集人追記：その後、CANPANセンター側の事情により、学会事務局業務の新規募集を全面的に停止することとなり、本学会のCANPANセンターへの委託は白紙撤回されました。)
  - 4) その他
    - ・会費未納者への滞納者のうち、6年以上滞納している6名について再請求を行ったのち、6ヶ月の猶予期間をおき、それでも未納であった場合に理事会にて除籍を検討することとなりました。

<2012年度 第1回理事会>

- 1) 日 時 2012年5月14日(日) 13:00~15:50
- (2) 場 所 立教大学 新座キャンパス 3号館 N324 教室
- (3) 参加者 清水会長、村上副会長、鈴木副会長、安島理事、小畑理事、宍戸理事、益山理事、中村理事、野口幹事、古本幹事 以上 10名 (委任状5通)
- (4) 議 題
  - 1) 第11回全国大会の評価と反省
    - ・3月に実施された全国大会について評価すべき点、反省すべき点について意見交換を行いました。
  - 2) 2012年度総会・講演会について
    - ・企画と運営体制について検討しました。
  - 3) 入退会審査
 

入会審査 正会員：芝木儀夫(精華女子短期大学)、上原尚子(金城学院大学)、井上晶子(立教大学観光研究所) 以上3名

退会申請 正会員：中尾清、菱木健、辻三千代 以上3名

※入退会許可後、正会員142名、準会員14名、特別会員1団体、名誉会員2名

▽ 次回2012年度第2回理事会は6月16日(土)、立教大学新座キャンパス5号館60会議室にて開催予定。

## 【編集委員会からのお知らせ】

(1) 機関誌『観光ホスピタリティ教育』第6号 発行

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第6号は7月中の発行を目指して作業中です。

(2) 機関誌『観光ホスピタリティ教育』第7号 投稿原稿の募集

機関誌第7号の投稿原稿(論文・研究ノート・教育実践報告)の募集をいたします。6月16日の総会時、ならびに6月下旬を目途に学会公式サイト<<http://jsthe.org>>において日程や送付先等の詳細を発表いたします。

## 【観光学・観光教育に関する動向】

(1) 日本学生観光連盟(学観連)総会・学生討論会報告

学観連代表(立教大学観光学部3年) 藤野 里帆

2012年3月3日に立教大学新座キャンパスにて開催された、学観連総会・学生討論会のご報告を致します。当日は10大学から36名の学生と、学観連サポーター・連携企業から7名にご参加頂きました。

### <学観連総会>

総会では、平成23年度活動報告および決算報告、平成24年度活動計画および予算案、規約改正案が議題に挙がり、いずれも原案通り承認されました。

平成23年度の活動としては報告されたものは以下の通りです。

- ・6月25～26日 学観連主催 横浜フィールドワーク・学生討論会
- ・9月7日～10日 若旦那・若女将密着体験合宿  
(全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会青年部様のご協力のもと)
- ・11月26日 学観連主催 講演会2011
- ・2月10日 (社)日本観光振興協会主催 産学連携オープンセミナー(学観連共催)
- ・5月～12月 (株)JTB法人東京×学観連共同プロジェクト

今年度も、8月に川崎で実施するフィールドワークや、11月に開催する観光産業従事者を講師に招いた講演会等、様々な企画を計画中です。

### <学生討論会>

今年度も、総会後の企画として学生討論会を行いました。

「ニューツーリズムの可能性～学生から見る新しい観光のあり方～」を討論テーマに、6グループに分かれて討論を行い、最後に討論で出された意見の報告会を行いました。

エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光など、従来の物見遊山的な観光とは異なる、体験・交流の要素が強い観光のあり方が浸透してきていることを受け、新しい観光のあり方・あるべき姿とは何か、今後学生に受け入れられる観光とは何か等について意見を出し合いました。

討論会後の発表では、「Gat (give and take) ツーリズム」や「オタクツーリズム」等、学生達の自由な発想から生まれた、新しいタイプの観光が複数発表されました。



討論会の様子



討論後の報告会

今年度の総会も、多くの方々のご協力のもと、無事に終えることができました。総会の準備にご協力いただいた方々、当日ご参加頂いた皆様には深く感謝しております。総会をもって執行部は新体制に入り、私たち第4期役員のスタート地点となりました。

2009年の学観連設立から、早くも3年が経ちます。これまで学観連では、「観光を学ぶ学生同士がネットワークを構築し、実社会の観光場面で学習活動並びに社会貢献を行うことを通して、観光の新たな可能性を求め」ことを目的に掲げ、学生主体の講演会やフィールドワークを企画・運営してきました。現在では参加大学数24大学、会員数341名の組織に成長し、観光系学部・学科に所属する学生のネットワーク構築に貢献しています。

今後も、学観連の強みである学生間のネットワークを活かし、大学の枠を超えて活動の場を広げていきたいと考えています。1期から3期の先輩方が築いてきた学観連の基礎を守りつつ、さらなる発展へとつなげるため、新役員一同協力して学観連の運営に取り組んでいきます。今後とも、日本学生観光連盟をよろしくお願い致します。

## (2) 札幌国際観光セミナー、ニセコ国際観光セミナーのお知らせ

北星学園大学短期大学部 森越京子

北星学園大学短期大学部では、文科省科学研究費基盤研究採択事業の一環として、2012年6月30日(土)、7月1日(日)の2日にわたり、札幌国際観光セミナーとニセコ国際観光セミナーを実施いたします。

6月30日の札幌国際観光セミナー(札幌国際ビル8階国際ホール)では、13:15から「アジア太平洋地域における国際観光の新潮流」と題した基調講演があります。講師は、ネバダ大学ラスベガス校シンガポールキャンパス初代学長であり、アジア太平洋ホスピタリティ観光教育協議会会長(President, Asia-Pacific CHRIE The Hospitality and Tourism



アンディ・ナザレチャック氏

Educators)です(通訳、解説付き)。15:00からの第二部は「北海道におけるインバウンドツーリズムの新戦略を探る」と題したプレゼンテーションとパネルディスカッションで、「北海道におけるインバウンド観光客受け入れの現状と課題」(中川賢一氏 (札幌商工会議所付属専門学校教員))、「北海道のスキーリゾートにおけるインバウンド集客の可能性」(松澤憲司氏 (株式会社プリンスホテル富良野スキー場))、「日本におけるロングステイ観光・余暇活動のあり方の将来展望」(弓野克彦氏 (財団法人ロングステイ財団理事・事務局長))の報告と討議があります。

また、翌7月1日のニセコ国際観光セミナー(ニセコ町民センター大ホール)では、13:30からアンディ・ナザレチャック氏による基調講演「国際ホスピタリティ観光ビジネスの可能性—地域の優位性を見据えて—」があり(通訳付き)、15:00から「北海道におけるロングステイ観光・余暇活動の可能性—ドイツの例を参考に」(弓野克彦氏)、15:40から「ニセコにおける国際観光の展望と課題」(山本契太氏 ニセコ町商工観光課長)の講演の後、フロアとのディスカッションとレセプションが予定されています。

お問い合わせ、参加申し込みは北星学園大学短期大学部 札幌市厚別区大谷地西2-3-1 Tel:011-891-2731 Fax: 011-896-7660 森越京子 morikoshi@hokusei.ac.jp、吉田かよ子 kyoshida@hokusei.ac.jp まで。

(編集人注:アジア太平洋ホスピタリティ観光教育協議会(Asia-Pacific CHRIE The Hospitality and Tourism Educators)は、本学会発足の契機ともなった国際的な観光ホスピタリティ教育の団体です。)

### 【書籍紹介】

山上 徹 著

#### 『食文化とおもてなし』

(学文社、2012年、198p)

ISBN-13: 978-4-7620-2254-8

定価:2,300円+税

本書は、日本の伝統的な食文化の遺産が次第に失われ、伝統的行事も衰退化してきていることに危機感を感じた筆者が「人間は何のために食べるのか」という原点に戻って考察することから始まる。そして、京料理、日本料理、行事、宗教などおもてなしの関連を紹介しながら日本らしいおもてなしについて論じている。これらは国際競争力にも通じるものである。筆者は本学会の元会長。

情報提供:編集人

横川 潤 著

#### 『〈錯覚〉の外食産業

—超熟のマーケティング論—』

(商業界、2012年、192p)

ISBN-13: 978-4-7855-04236

定価:1,600円+税

外食産業が「産業化」して40年余りが経過する。しかし、市場が成熟化したといわれる1990年代前半から約20年にわたって市場規模は停滞したままといわれる。その理由について、ポートフォリオ、4P、真空地帯仮説など、マーケティングのキーワードを用いて解説している。すかいらーくなど創業者の足跡を整理している部分も貴重である。筆者は本学会の正会員。

情報提供:編集人

会報では、会員の皆様から提供された観光ホスピタリティ教育の情報及び書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍(定期刊行物を除く)を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。ご協力をお願い申し上げます。

(E-Mail: tantomo@gmail.com、FAX 04-7183-6421 丹治朋子 (川村学園女子大学))